

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ

世界の窓



Vol.49

ペルー共和国



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」!

案内役は、国際交流員のアダム・ラビエールさんとジェニファー・ステイントンさんです。

Hello! ジェニーです。寒くなって冬の足音が聞え始めると、どこかまた暖かいところへと旅立ついい時期のような気がします。そんなときの旅の目的地といえば、素晴らしい景色、多様な歴史と日の光溢れるふるさと、南アメリカがいいでしょう。さあ、ハイキングブーツを探し出して! 今月は皆さんをペルーへご案内します。



ペルーは山が多く多様な表情を見せる国で、南アメリカ中西部の海岸沿いに位置し、2,700万人が居住しています。アマゾン川流域の盆地に野生動物が数多く生息していること、またかつての荘厳なインカ帝国の首都だったクスコや、その

インカ帝国は13世紀初期、ペルー高地につくられたとされています。征服された国から平和な融合へと、当時のインカ人たちはいろいろな手法を経て領土を拡大していき、やがて中央にアンデス山脈がそびえた南アメリカ中西部の大部分をもその手中に収めたのです。この山脈はその雄大な環境にある一方、ジャングルの中に遺跡マチュピチュが何百年も手つかずのまま、探検家に偶然発見されるまでその姿をひそめていたという一面も持ち合わせています。ちなみにこの遺跡は、発見されたのが1911年、つまりまだ発見から1世紀も経過していないのです。だからこそ、この遺跡は比較的損傷が少なく、古代先住ペルー人たちの魅惑的で美しい(時として邪悪な)世界への扉として存在しているというわけです。



はるか上空にそびえるアンデス山脈にある「失われた都市」マチュピチュを含め、かつてのインカ帝国の遺跡があることで有名なところです。

インカ帝国の遺跡としては**マチュピチュ**は最も有名ではありますが、ペルーという国はほかにも紀元500年ころのものだと考えられているケラップ



岩など、さまざまな重要かつ印象的なインカの遺跡を有する国です。こうした遺跡はマチュピチュ同様人気が高まっており、1日に4,000人以上

上のツアーの観光客などで混雑しています。ボリビア共和国との国境に位置する南米最大の湖チチカカ湖など、この豊かでさまざまな顔を持つ国の、ほかの魅力をご紹介します。旅行者は活気溢れる現代的な首都リマと、ワラスのスペイン植民地時代の名残と集団移住の様子に魅了されることでしょう。ワラス近郊にあるアンデスのワスカラン国立公園でのハイキングでは、旅行者たちは、ジャガーやラマなどの珍しい野生動物を観察してみたいという願いがかないます。



ペルー料理は地域ごとに実に多種多様です。

高地ではインカ特製料理、テンジクネズミのローストに挑戦できる土地ですし、その一方、海岸地方は魚貝料理が素晴らしいです。新鮮な魚介類のレモン汁がけ「セビツチェ」、牛の心臓の香草焼き「アンティークーチョ」などが典型的な料理です。



セビツチェ